

読みの観点をもとに、物語の主題を読み取る生徒の育成

～中学3年「故郷」の実践を通して～

田原市立東部中学校 鈴木 孝典

1. はじめに

物語は、ただ単に読書をして、それぞれが感想をもてばいいという考えもある。しかし、国語の授業で物語を扱うならば、そこに意味がなければならぬ。それぞれが、勝手気ままに読んで、感想を述べ合う程度では、わざわざ授業をする必要はないだろう。それでは、国語の授業で物語を扱う意味は、何だろうか。私は、物語の主題を読み取る技術を身につけさせるためと考えている。物語には、中心となる人物がいる。その人物は、物語が経過する中で何らかの成長をする。その成長をする過程を通して、作者は読者に何かを訴えている。そこに、人間として大切なこと、人生の意味が隠されていると考えている。その主題を読み取る力をつけることが、生徒たちの生きる力になっていくことを信じている。

本学級の生徒は、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組むことができる。4月から「設定、話者、視点、事件、起承転結、クライマックス、中心人物の変容」といった「読みの観点」をもとに、一人読みや話し合いをする学習を進めてきた。グループ活動に慣れ、少しずつ話し合いができるようになってきた。そのなかで練りあげた自分の考えを学級全体に向けて自分の言葉で言える生徒が増えてきている。そこで、「読みの観点」を使った自分の考えの交流から、「読みの課題」を設定し、その課題に対する考えをさらに交流させ、主題をとらえることができるようにさせたいと考えた。

「故郷」は、中国近代文学の父とよばれる魯迅の作品である。中学校最後の物語で、最も読解が難しいと言われている作品ではあるが、生徒たちに「読みの課題」を検討させるうえで最適であると考えた。20世紀前半の中国が舞台であり、現代の中学生には理解しにくい部分もあるだろう。だが、自分とは異なった状況の物語を読むということも文学の読みにおける重要な要素である。学習指導要領の読むことの指導事項には、「場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること」と示されている。また第3学年では、「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」が求められている。「故郷」に描かれている人物や時代について十分に読み取らせたい。作者がこの作品に込めた主題に迫ることができるように指導したい。

2. 研究のねらい

生徒の実態から、以下のような生徒の姿を願い、研究を進めた。

読みの観点をもとに自分の考えをもち、物語の主題を読み取ることができる生徒

3. 研究の仮説と手だて

「読みの観点をもとに自分の考えをもち、物語の主題を読み取ることができる生徒」という生徒像に迫るために、以下のような仮説と手だてをもって研究を進めた。

<仮説①>

「読みの観点」を具体的に示し、一人読みの時間を設ければ、自分の考えをもつことができるであろう。

手だて1： 「読みの観点」を具体的に示し、一人読みをする。

「設定、話者、視点、事件、起承転結、クライマックス、中心人物の変容、主題」といった観点に沿って、一人読みをする。ノートに考えを書かせ、机間支援しながらよいところを全体に紹介していく。また、はやく書けた子の考えを黒板に書かせていく。そうすることで、生徒全員が考えをもてるようにしていく。

手だて2： 朱書きでよい点を褒めたり、もう少し深めてほしい点に気づかせたりすることで、自分の考えに自信をもたせる。

ノートを持ってこさせ、よい考えには丸をつけ、曖昧なところには朱書きを入れていく。そうすることで、一人一人の考えをより明確にしていく。

<仮説②>

互いの考えを交流する場を設定し、その展開を工夫すれば、物語の主題を読み取ることができるであろう。

手だて3： 全員に発言の機会を保障するために、4人組で話し合いを行う。

4人組をつくり、ノートに書いた考えを発表し合う。それから質問や反論に入る。意見が食い違う点が「読みの課題」となり、教室のあちらこちらで小討論が展開される。意見交換を十分にさせたあとで、もう一度ノートにまとめさせ、自分の考えを蓄積させる。生徒のノートを自分の考えで埋めさせる。

手だて4： 各組から「読みの課題」を発表させて、全体で検討させる。

各組ごとにミニホワイトボードを使って「読みの課題」を発表させる。次々と提示される「読みの課題」について、全体場で各人が考えを述べ合う。課題を解決しながら、主題に迫らせていく。

手だて5： 単元の最後に評論文を書かせ、主題が読み取れたことを実感させる。

最後に評論文を書き、考えをまとめることで、言いつばなしで終わらない授業にする。

4. 研究の方法

生徒の実態と教師の願いから、生徒 A を抽出する。生徒 A の授業ノートの記述、生活日記、話し合い、評論文の記述などから変容を分析し、手だての有効性を検証していく。

生徒 A の実態

毎日の朝読書に熱心に取り組むなど本を読むことは好きなのだが、なかなかノートに自分の考えを整理して、わかりやすく書くことができない。積極的に人と交流するタイプではなく、授業中に出てきた人の考えをあまり参考にすることができない。4月に『握手』を学習したあと、単元の振り返りには「主題の読み取りが苦手」と書いてあった。

生徒 A にかかる教師の願い

「読みの観点」を使い、一人読みで自分の考えをたくさん書けるようになってほしい。また、自分の考えを自分の言葉で言うことの楽しさや大切さを知り、互いの考えを交流しかわり合うことで、自分の読みが深まっていくことを実感してほしい。

5. 研究の実際と考察

(1) 「読みの観点」を示し、一人読みをして自分の考えをもつく手だて1・2に対して>全文を範読し、わかったこと・気づいたこと・思ったことを箇条書きでたくさん書かせていく。5つ書いたら持ってこさせ、丸をつけ、「この物語は色の描写が多い」などのよいものは黒板に書かせていく。生徒

Aを含め、何名かは「私は知事である」と書いてきた。こうした誤読はあとで検討するために、こちらにもメモしておく。全員に丸をつけ、自分の考えが書けたら、「読みの観点」【資料1】を具体的に示し、一人読みをさせていく。

30分ほどノートに考えを書かせ、なかなか書けない生徒へ机

間支援をしていく。そして、「36名のうち、現在7名（生徒Aを含む）が書けていない、書き終わっていないという状態です。その子たちが書けるようなヒントを出してください。書けた人たち、どんなヒントでも結構ですから、自分はどう考えた。答えは言わず、こう

【資料1】読みの観点

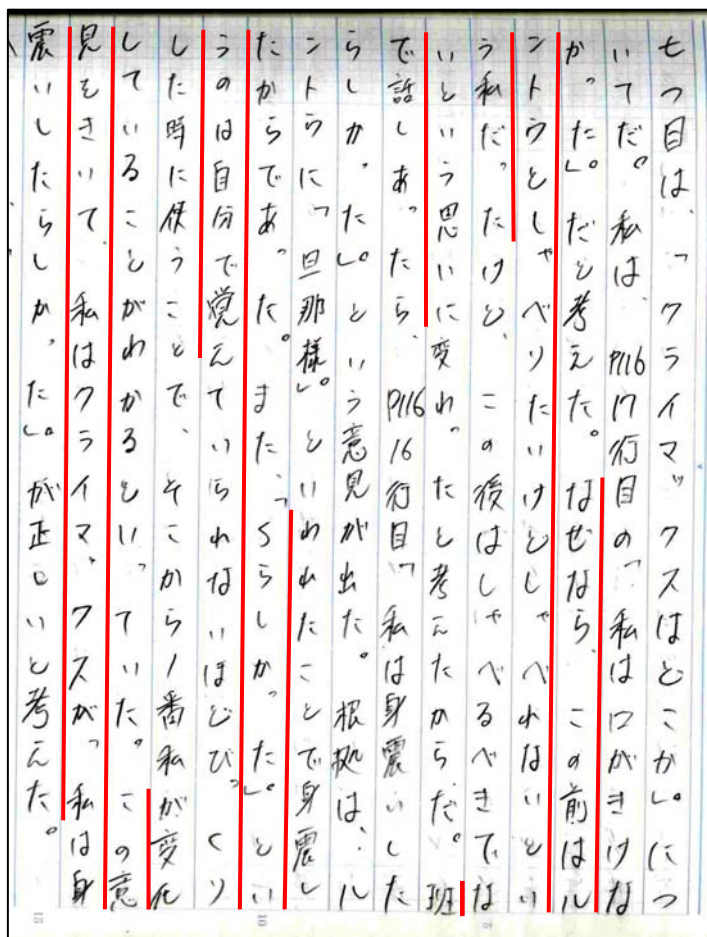
読みの観点	
①設定	ア、時 イ、場所 ウ、人（登場人物） a 中心人物 b 対役 c 脇役 d 端役他
②作者と話者	
③話者の視点、位置、見え方	ア、一人称限定視点（私は〇） イ、三人称全知視点（すべての人物に出入りできる「神の視点」） ウ、三人称限定視点（特定の人物のみ出入りする「限定」された視点） エ、三人称客観視点（たれの心の中にも触れない）
④事件	ア、いくつの事件が起きたか イ、最も重要な事件は何か ウ、その事件を通して誰がどう変化したか
⑤起承転結（作品の構造・ストーリー）	ア、話の始まり（起）はどこからか イ、山場（転）はどこからどこまでか ウ、クライマックスはどこか エ、クライマックスと対になるところはどこか（中心人物の変容）
⑥主題	ア、中心題材（モチーフ）は何か イ、主題（テーマ）は何か
⑦表現技法	象徴、暗示、伏線、対比、イメージ他

まとめさせる時間を取る。「みんなと話して、すごいなと思ったことや、新たに気づいたこと、なるほどと納得したことなどがあつたでしょう。それらを文章でまとめなさい。」と指示をする。

この段階が「内部情報の蓄積」である。生徒のノートが自分の考えで埋まる。そのような状態にしておいてから、全体での検討に移る。だからこそ、全員が当事者として検討に参加できるのである。発問の質を高めることも大事だが、このような支援をすることもまた、大切なことだと考える。

【資料4】生徒Aが4人組で話したあとのまとめ

【資料4】は、4人組での話し合いを終え、生徒Aがまとめたものである。生徒Aの考えには「なぜなら、この前はレントウとしゃべりたいけどしゃべれないという私だった」というきちんとした根拠があるが、これまでは自分の考えばかりをノートに書いていた。しかし今回は、4人組の他の生徒が話した『私は身震いしたらしかった。』の『らしかった』の部分に着目している。「班で話しあったら」「『～らしかった。』というのは自分で覚えていられないほどびっくりした時に使うこと」だと気づき、生徒Aが自分の読みを深めている様子が見えてくる。

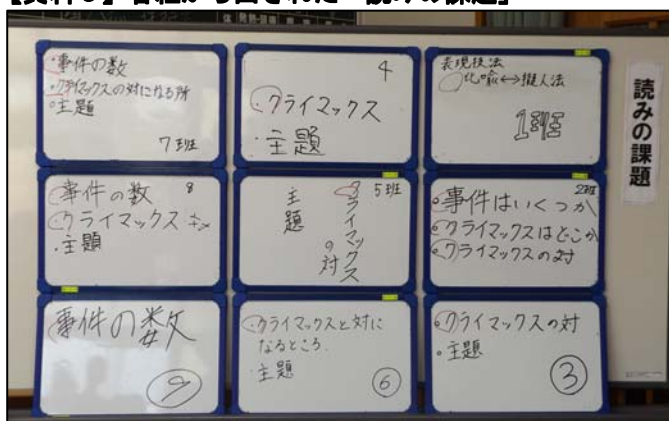


(3) 各組から「読みの課題」を発表させて、全体で検討する<手だて4に対して>

ノートがまとまったら、各組ごとにミニホワイトボードを使って「読みの課題」を発表

させる【資料5】。次々と提示される「読みの課題」について、各人が考えを述べ合う。「表現技法」については、あとから色彩イメージを扱うことで終わった。「事件」の数は、「故郷に帰ってくる私」、「レントウとの思い出」、「レントウとの再会」、「故郷を離れる私」の4つで決着した。

【資料5】各組から出された「読みの課題」



その中で、最も重要な事件は「ルントウとの再会」にすんなり決まった。考えが分かれたのは、「クライマックス」はどこか、であった【資料6】。ちなみに「クライマックス」は、「大きな流れの中で、作品の変化が確定したところ」と定義した。なかなか『私は身震いしたらしかった。』の一文が出てこないと思っていたら、生徒Aが発言した。なかなか発言できなかった生徒Aが全体の場で発表できたのは、少人数で話し合いをして自信をつけたこと、ノートに自分の考えがたくさん書かれていたことが理由として考えられる。

授業後の生活日記には、全体の場で発言できたことへの喜びと、班の仲間への感謝が綴られていた【資料7】。

「クライマックス」が3文に絞られ、その「対」になる部分の検討に入った【資料8】。『私は、感激で胸がいっぱいになり、しかしどう口をきいたものやら思案がつかぬままに、ひと言、「ああルンちゃん—よく来たね……。』の一文で全員一致した。C9のように、悲しい場面と「対」になるのが「感激」だと発表する生徒もいた。「クライマックス」と「対」が決まり、その場面で中心人物である「私」が、どう変化したかの検討に入った。自分の考えをノートに書かせ、持ってこさせて丸をつけた。丸をもらった生徒どうしで意見交換をさせ、考えをまとめさせて全体の場で発表できるように仕向けていく。

発表に入る。【資料9】のように、『感激』から『悲しみ』へ変化する「私」の

【資料6】全体での話し合いの様子

- T : 「クライマックスの一文はどこですか。」
 C1 : 『「旦那様！……。」だと考えます。なぜなら、ルントウの態度がうやうやしい態度に変わって驚いたからです。』
 C2 : 「僕も同じところで、まったく別人のルントウになってしまったからです。』
 C3 : 『「悲しむべき厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた』だと考えます。なぜなら、ここで私が『厚い壁』を感じてしまったからです。』
 C4 : 「私も同じところで、一瞬にして二人の距離が離れてしまったことに、私が気づかされたからです。』
 C5 : 『「私は口がきけなかった』だと考えます。なぜなら、ルントウに話したいことがたくさんあったのに、ここで何も言えなくなってしまったからです。』
 C6 : 『「旦那様！……。」は違うと考えます。この言葉を聞いて、私は変化したからです。』
 C1 : 「変更します。」
 T : 「どうして変更するの？」
 C1 : 「私に変化したのはこのあとだからです。」
 T : 「他にありますか。」
 A : 「班で話し合ったんですが、『私は身震いしたらしかった。』だと考えます。なぜなら、『らしかった』というのは、無意識で、自分で覚えていられないほどびっくりしたということだからです。」

【資料7】生徒Aの生活日記

みんなたくさん発言していて、授業が盛り上がっていて、いい雰囲気だったと思います。今日は班でしっかり話し合ったので、私も発言できて、とてもよかったです。〇〇さんや〇〇くんのおかげです。次の時間も、発言したいです。がんばります！！

【資料8】全体での話し合いの様子②

- T : 「クライマックスの対となる一文はどこですか。」
 C7 : 『「私は、感激で胸がいっぱいになり、しかし〜」だと考えます。私は再会できることを喜んでいるからです。』
 T : 「それはどこからわかりますか。」
 C7 : 『「感激で胸がいっぱいになり』って書いてあるからです。』
 C8 : 「僕も同じところで、親しみを込めて『ルンちゃん』と呼んでいるからです。』
 C9 : 「同じで、クライマックスは悲しい場面で、その対になるのが『感激』だからです。」

【資料9】全体での話し合いの様子③

- T : 「クライマックスの場面を通して、どんな「私」からどんな「私」に変化しましたか。」
 C10 : 「ルントウに会えて感激した私から、『旦那様』と言われて、驚きや悲しみの私に変わりました。」
 A : 「私も同じで、『ルンちゃん』と呼んで嬉しさで一杯だった私から、悲しむべき厚い壁を感じてしまう私に変化しました。」

生き方を大切にしないと後悔するものだ。」に変化している。最後には、人の考えも受け入れて「もともと世界に希望はないのだから、自分達で望み行動した結果が希望になるのだ。」となっている。ここまで、生徒たちだけで主題に迫ることができた。

6. 研究の成果

(1) 仮説①に対して

生徒Aだけでなく、生徒全員が「読みの観点」にそってノートに自分の考えを書くことができた。ただ「書きなさい」と指示するだけでは、不十分である。よいところをこちらが声に出したり、書けた生徒は黒板に書かせたり、ヒントを出させたりするなどの支援の必要性を感じた。

(2) 仮説②に対して

はじめから全体場で自分の考えを発表することに、抵抗を感じる生徒は多い。少人数で考えを交流することで、全員が声を出し、全員のノートを自分の考えで埋めることができた。「読みの課題」を全体で検討することで、生徒Aを含め、全員が意見交流をもとに、根拠をもって主題を読み取ることができた。それを評論文でまとめることで、さらに読みを深めることができた。

7. 今後の課題

本研究では、主題を読み取る技術を生徒に身につけさせるために、様々な手だてを講じた。全員が「読みの観点」をもとに、「読

みの課題」を検討し、根拠をもって主題を読み取れたことは、授業者としてうれしく思う。

しかし、生徒Aの単元の振り返り【資料1 1】にあるように、「自分が考えたことや発表したことがみんなのためになったと感じられる場面をつくれたこと」「友達の考えによって自分の考えを深めることができたという経験ができたこと」が、何より授業者としてうれしかった。今後も、一人の「わかった」が、みんなの「わかった」になる経験を積み上げられるような、授業を目指したい。

8. おわりに

「一番国語が得意な子も知的に満足し、一番国語が苦手な子も丸をもらって満足する」なかなか自分の考えを書けない生徒、なかなか自分の考えを発表できない生徒。そのような生徒たちが全員活躍できる国語の授業には、まだまだなっていない。すべての生徒を落ちこぼさぬ努力を、すべての生徒の自尊心を授業で高める努力を、今後も続けなければならないと考える。

【資料1 1】生徒Aの単元の振り返り

「故郷」の授業では、意見の交流が多かったです。主題の読み取りが難しかったのですが、みんなの意見を聞いて「なるほど」と思いました。あと、みんなの前で発言できたのは、班のみんなのおかげです。自分が意見を言ったあとに、「(生徒A)と同じで」と言われたり、人の評論文に私の意見が書かれたりして、何かうれしかったです。発言してよかったです。

指導計画（8時間完了）

<p>出 会 う</p>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「故郷」を今まで学んだ観点に沿って読もう①②</div> <p>○作者について、説明を聞く。① ○音読み、わかったこと・気づいたこと・思ったことを書く。 ○読みの観点（設定、話者、視点、事件、起承転結、クライマックス、中心人物の変容、主題）に沿って一人読みをする。②</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>・話者は、私。一人称限定視点で描かれている。中心人物は私、対役はルントウ。色彩イメージは、暗い。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>・対比されているのは、昔と今のルントウ、ヤンおばさん。起承転結にわかる。転の中からクライマックスの一文を探す。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>・物語の舞台は中国。1921年頃のお話。辛亥革命の後。季節は冬。私は20年ぶりに故郷に帰ってきた。</p> </div> </div>
<p>考 え る ・ か か わ る</p>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">一人読みから考えたことを交流し、「読みの課題」について考えよう③④⑤</div> <p>○4人組で、ノートに書いた考えについて話し合う。意見が食い違う点から課題を見つける。③ ○各組の代表者が課題を提示する。「読みの課題」を絞り、全体で話し合う。④⑤ ※予想される「読みの課題」</p> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・「旦那様！……。」 その言葉で、厚い壁が2人を隔ててしまったことに気づいたから。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・「私は身震いしたらしかった。」 「旦那様！」の一言は、変化の原因ではあるが、変化した瞬間ではないから。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> <p>・作者は中心人物の変容を通して、作品の主題を伝えようとしているのだな。</p> </div>
<p>ま と め る</p>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「故郷」の主題を考えよう⑥</div> <p>○ノートに主題と、そう考えた理由を書く。発表する。 ○グループや全体での話し合いをもとに、自分の考えを見直す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・「人は変わってしまっても、希望をもって生きることが大切だ。」ルントウとの距離は遠くなり、ヤンおばさんはいじきたなくなってしまったけれど、私はホンルとシュイションの友情を感じていて、「家へ遊びに来い」という誘いを、自分の幼いときの約束に重ねて、自分たちのようにならないでほしいと願っているから。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・「人生がどんなものでも、それが自分の道である。」故郷に帰った私は、売り払う我が家の過去の思い出や、変わってしまった友人との再会などを、ルントウという対役を通して表している。私は、そんな自分や周りの人生を受け入れ、「自分の道を歩いているとわかった」と言っている。そして、最後にホンルとシュイションに希望をたくしているから。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> <p>評論文を書こう⑦⑧</p> </div> <p>○評論文を書く。 ○意見交流し、「故郷」の学習を振り返る。</p>